

壽

ことぶき第74号

発行元 特別養護老人ホーム 梅寿荘 / 養護老人ホーム 梅寿荘
はーとぼーと 梅寿荘

〒630-0266生駒市門前町8-7
電話 0743-74-1175
FAX 0743-74-0452

http://www.baijusou.jp/
E-mail: baijusou@kcn.ne.jp

編集長/辻村 万希
2015年4月号

目次

- 制度改正と新年度の方針…2p
- 研究発表会より…3p
- お茶会、芳野先生にインタビュー…4p、5p
- 節分行事、新人紹介…6p
- 栄養課実習生による喫茶…7p
- おでかけ日記…8p



ゴスペルコンサート・慰問

「旅立ち」

施設長 辻村 泰範

春。小学生や中学生の頃、新学期が始まると担任の先生は誰になるのだろうか。クラスの仲間はどんな顔ぶれになるのだろうか、わくわくドキドキしたものでした。

社会人になっても、公務員はもちろんのこと、大きな組織や会社では春は人事異動のシーズンです。辞令一枚で突然部署が変わったり、遠くの支店に転勤を命ぜられたりすることはサラリーマンの宿命かも知れません。

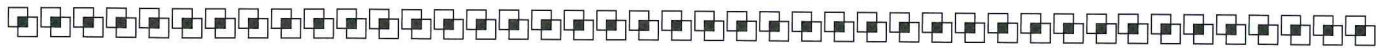
宝山寺福祉事業団の傘下の施設も今では生駒市、奈良市、安堵町に点在しています。新しく採用された職員が元気に配属施設に散らばってゆくように、新しい職場、新しい職務へと異動するベテランさんもいます。ほんの少し寂しい思いがしたり、不安な気持ちが起こったりするかもしれませんが、安心してください。彼らは私ども事業団のプロですから。

大学に入って最初の春、島根県出身の友人が帰省するというので、誘われて隠岐の島に一人旅行をした時の光景です。島を離れるフェリーには集団就職で故郷を離れる中学を卒業したばかりの一行が乗り合わせていました。ドラの音に送られて船が岸壁を離れ、若者たちと見送りに集まった家族や友人たちをつないでいる五色の紙テープが長く伸びて、やがてちぎれていきます。

それまで集団の傍らで少し離れて立っていた男の子が船に合わせて岸壁を走りだしました。やがて彼は埠頭の先端まで走りつくと、一人いつまでも手を振っているのです。姿が見えなくなるまで。

彼がその後どんな人生を送っているのか、見送られた彼女がどうなったのか、もちろん私には知る由もありません。縁もゆかりもない筈の私に、春になると何故かその光景が蘇ってくるのです。「元気でなあ、がんばれよ」彼の声が聞こえてくるような気がするのです。

制度改正と新年度の方針



特養次長・養護施設長 松岡 利和

本年度は3年ごとの介護保険制度改正がおこなわれました。既報のとおり施設・事業者に与えられる介護報酬が全体的に縮減されるという、国の財政状況と超高齢社会という現状を色濃く反映した結果となりました。

このことは利用者にとっては、単純に施設・事業所に支払う介護費用（1割分）がいくらか減額されることとなり喜ばしいことと感じられます。但し、8月には一部の方の負担増が待っています。これまでの利用者負担限度額制度（収入に応じて費用が減額される制度）も変更され、前年度所得が判明する時期に負担額の変更が起こります。（この点は後日改めてご報告したいと思います）

一方で施設入所に関しては、今後（4月1日以降）、要介護3以上の方だけが特別養護老人ホームに入所でき、要介護度1や2の比較的軽度の方は特養には入所できなくなりました。ご不安になられないよう補足しますが、すでに入所されている方々は例外的に介護度1・2でも引き続き入所利用ができるようになっています。

これらの改正は施設の視点で考えると、今後は一層重介護状態の方ばかりが入所されて、濃密な身体介護、医療健康管理などの割合が大幅に増加することを意味します。また、介護分野での人材不足が社会的に取り上げられるような厳しい時勢の中、大きく減額された介護報酬の中で、この課題に取り組んでいくこととなります。

以上の今改正の方向性を踏まえ、今年度は以下の事業方針を掲げて取り組んでいきます。

＜基本方針＞

- ① 社会福祉法人のあり方が問われる中、これまで以上に地域に貢献する姿勢を明らかに示す必要があります。地域住民・関係機関への援助・協働・連携を密接におこない、そのことを情報発信し、地域になくってはならない福祉拠点としての評価を高めていきます。
- ② 介護報酬のマイナス改定、物価・エネルギー料金の上昇など、施設運営がかつてない厳しい環境に置かれます。支出の節減を引き続き実施し、改定のマイナス分を各加算で補う運営を高精度に取り組んでいきます。
- ③ 介護福祉分野での人材不足が社会的問題となっている現況で、職員の確保とその質の向上が必須です。従前からおこなうスーパービジョンによって、すでに働く職員の人材育成を重点的に取り組みます。スキルアップした職員が定着することで、働きやすい職場環境を生み、そのことが新規の人材にとっても魅力となるような好循環を構築します。
- ④ 制度改正による変更点について、新旧入所者・入所申込者を対象に、新利用料・入所の条件・負担限度額変更などについて情報発信し、適切な相談援助をおこないます。

「お風呂で笑顔に!」～身も心もリフレッシュ～

入浴委員長 杉田 和則

1月18日、南コミュニティーセンター「せせらぎ」にて法人研究発表会が行われました。集まった各福祉施設の日頃の活動等が発表され、違った角度から自分の介護を見つめ直す良い機会に恵まれました。

その中で私たち梅寿荘が発表したテーマは「入浴マニュアル」についてです。これは入居者1人1人の入浴方法・介助方法を丁寧に文章化し、どの職員でも同質のサービスを提供できるようにしたものです。梅寿荘では「お風呂で笑顔に!」～身も心もリフレッシュ～という目標のもと、より良い生活を送っていただけるように努めています。

今回、私は発表者という立場で研究発表会に参加させてもらい、大変緊張いたしました。貴重な体験ができ嬉しく思っています。これからも各施設の繋がりを大事にし、日々切磋琢磨していけるよう努力していきたいと思っております。

『スーパービジョン体制を整える』

2F フロア主任 堀本 卓史

対人援助職は、文字通り「人を大切にする」職業です。しかし、その特性上、対人援助の仕事に携わる者自身が、「バーンアウト」に代表されるような過度のストレスに遭遇しやすいといえます。しかも、生真面目な人ほど過度のストレスを感じやすく、手当てしなければ退職を余儀なくされるという事例も数多く報告されています。人を支えるためには、支えられなければなりません。ご利用者はもちろん、職員同士が「大切にしよう」職場風土が必要であります。

私たち梅寿荘では、平成24年度から介護職へのスーパービジョンの導入を試み、継続した学びを行いながら、支持的機能を中心としたスーパービジョン体制を整えてきました。実践の中で、「支持的機能」「教育的機能」「管理的機能」をその特性とするスーパービジョンの導入は、介護福祉の世界における喫緊のニーズに応えるものであることを日々実感しています。

ポスター発表においても、興味を持ってくださる方々がたくさんおられ、感謝でした。今年度は支持的機能を引き続き重視していくとともに、教育的機能にも力を入れていきたいと考えています。共に学びつつ、「大切にしよう」職場風土を、地域に発信していけたらと願っています。

お茶会

渡部 律子

3月14日にお茶会が開催されました。会場は立派な掛軸、野点傘、毛氈、釜が揃えられており本格的なお茶席が用意され、色とりどりの着物を着た先生、社中さんが梅寿荘の皆さんをお迎え下さいました。



芳野先生によるご挨拶、お道具の説明から始まり、お茶会が始まりました。普段なかなか見る事の出来ないお点前を、皆様真剣にご覧になっておられました。いつもなら賑やかななるホールですが、終始厳かな雰囲気でお茶会が進みました。沢山のお客様をお招きする為に、お茶碗がご用意されていたのですが、すごく綺麗に並べられておりました。茶道には色々なお道具があるらしく、昔から引き継がれている物も沢山あるそうです。素敵なお茶やお饅頭を頂けるだけでなく、語り継がれている物を大切に扱っておられるお姿にも感動しました。



各席に座っていた皆様の所に、綺麗な着物を着た社中さんからお茶が届くと、皆様少し緊張した表情をされお茶碗を手にとっておられました。自ずと背筋が伸びる様な体験をされている様子でした。初めて参加される方は「梅寿荘に来て、こんな本格的なお茶会に呼んで頂けるなんて」と、とても感激されてました。



ご家族様と仲良く参加されている方もいらっしゃいました。皆様とても大喜びで茶道を体験する事が出来ました。芳野先生、いつも定期的にお茶会を開いて頂き本当に有難うございました。

芳野先生にインタビュー

定期的に梅寿荘でお茶会を開催して頂いている茶道師範の芳野たか子先生に今回インタビューをさせていただきました。



Q、「先生は梅寿荘以外で、どのような場所でお茶会を開いておられますか？」

A、「宝山寺さんの九月二十三日のお彼岸万燈会で毎年開催しています。その時はこの法人の理事長さんや奥様、他法人関係の方々にサポートして頂いてとても感謝しています。」

Q、「先生は、梅寿荘でショートステイもご利用されており、その期間中にもお茶を振る舞って下さっていますが、先生にとって「茶道」とは「と思われる部分、または心がけている事はございますか？」

A、「単純にお茶が好きなんです。梅寿荘さんで行う時に意識しているのは『お茶』は、眠くならない作用があるので、なるべく遅い時間にしないように『十四時〜十六時』までに行おうと心掛けてます。」

「梅寿荘さんでの『お茶会』の席では、お手前やお道具の説明を含めたり、又『社中さん』（お弟子さん）の発表の席にもなるので、皆で喜んでいます。」

Q、「お稽古は月どのくらいの頻度で行なっていますか？」

A、「日曜組と平日組に分けて月六回のお稽古をしています。若い社中さんでも大分キャリアを積んでますよ。お仕事も忙しい中、お稽古に来てくれます。」

Q、「お稽古以外で普段はどのようなお過ごしですか？」

A、「京都の先生にお茶を習っているので通ったり、その先生のお初釜に参加したり、また唐招提寺の『うちわまき』『開山忌』『観月讚仏会』に行ったりしています。娘、娘婿さんにサポートして貰いながら楽しんでます。」

Q、「先生は以前大きな怪我をされたと伺ったのですが？」

A、「法華寺の光明会のお茶席の時に、雨が降っていて、滑って右手を複雑骨折、右大腿部にヒビが入る怪我をしたのですが、主治医の先生が『この方は、すぐく前向きな方だから寝たきりにさせたくない』と、あくる日からリハビリの先生がついて、一か月で杖で歩けるまでになり、数か月後にはお茶席が開けるまで回復し、今も杖なく歩けるまで元気になりました。」

Q、「先生の努力が実ってだと思えますが、素敵なお話ありがとうございます。後何かメッセージを頂けますか？」

A、「私達、お茶を習っている者は、皆お茶を振る舞ったり、お茶会が楽しみで仕方ないんです。梅寿荘さんの様にお茶会を開かせて頂ける場所を提供してもらおう事、お茶会を手伝って頂ける事を本当に感謝しています。これからもよろしく願います。」

（インタビュー 広報委員 渡部）



*色々お話しして頂いた中のほんの一部しか紹介する事は出来ませんでした。インタビューにご協力頂き有難うございました。

芳野先生が開催して下さるお茶会は、和菓子も美味しく、毎回好評で御利用者も職員も大変楽しませて頂いています。芳野先生自身も、京都までお茶を習いに行かれていたとは驚きでした。生涯に亘って学ぶ姿勢は、私達職員も見習わなければいけないと感じさせられました。

今回は、この様な貴重なインタビューの機会を設けさせて頂き、誠に有難うございました。（広報委員 辻村）

節分行事

行事委員 黒川 美穂



毎年恒例の節分行事を2月3日に行いました。

その日の昼食には、巻きずしや鰯などを提供させていただき、ご利用者の皆様には、味覚でも季節を感じていただけたのではないかと思います。

午後からは、行事委員会のメンバーが福の神や鬼に扮し、豆まきを行いました。ホールでは「豆まき」の歌を聴きながら、ご利用者がカラーボールを手に持ち、今か今かと鬼の登場を待っておられました。鬼が登場すると、福の神の「鬼は外～、福は内～」の合図でカラーボールが一斉に鬼に投げられ、ホールには大きな声とカラーボールが飛び交い、あっという間に鬼は逃げて行きました。

これからも、ご利用者の皆様楽しんでいただけるよう、行事の企画、運営をしていきたいと思っております!!



新職員紹介

医務室 坂口 弘美

炊飯器から美味しそうな匂いの湯気が立ち込める、家庭的な雰囲気の施設に入職させて頂きました。皆様が笑顔でお過ごし頂ける様、努めたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



医務室 南部 逸子

この度、梅寿荘に勤務させていただくことになりました南部です。

皆様が、安全安楽に安心してお過ごし下さるよう、お手伝いをさせていただきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

栄養課 実習

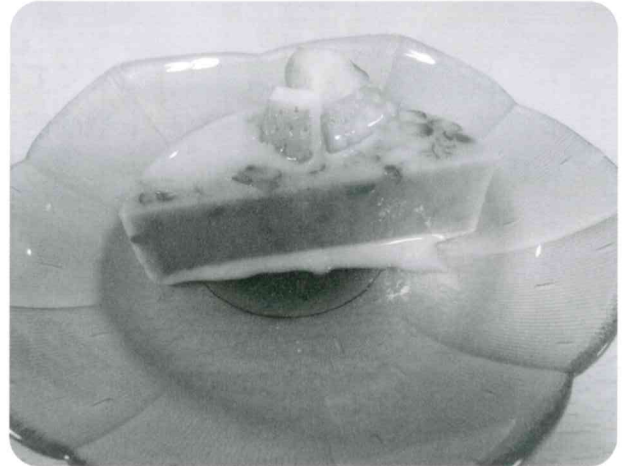
実習生による喫茶開催！

「骨に良いおやつ」

今年も帝塚山大学から栄養士を目指す学生さんが、栄養課に実習に来てくださりました。実習期間中、実際に昼食提供時に介護現場を堀井主任管理栄養士と一緒に見て周り、御利用者の嚥下状態に合わせた食事形態や、食事介助の様子などを熱心に見学されていました。

また、実習期間中の3月3日と3月5日の2回に亘り、実習生による喫茶が開催されました。今回は御利用者に食べやすく、かつ、栄養面にも考慮した「骨に良いおやつ」をテーマに手作りのおやつが振舞われました。

初日の3月3日の雛祭りの日には、実習生による喫茶が地域交流ホールで開催され、実習生お手製の『ミルク羊羹』が振舞われました。交流ホールに飾られた雛壇を眺めながら、美味しそうに舌鼓を打っておられました。



また、2回目の3月5日には、鉄分とカルシウムを取れるようにした、実習生お手製の『小松菜と小豆のスポンジケーキ』を各ユニットにデリバリーサービスしていただきました。普段野菜が苦手な御利用者の方も美味しそうに召し上がられていました。



両日とも、御利用者の皆さんに大変好評で、すぐに完売してしまったとのことでした。実習生の皆さん、御利用者の健康を考えた美味しいおやつをありがとうございました。



"オラ" 親しい者同士の間で交わされるスペイン語の挨拶です。
出逢いは、人生を豊かにしてくれる。
今までの人生で素敵な出逢い 思い出してみてください。
映画、美味しい食事、美しい風景、スポーツ、仕事、
仲間、恋人、家族、我が子、先生etc.
人それぞれ必ずあるはず！そんな素敵な出逢いを重ねる。

スペインを旅して、素敵な出会いがありました。
ベラスケス、ゴヤ、エルグレコ、ピカソ、そしてバルセロナで出逢った、
アントニオ ガウディ。
グラダナのアルハンブラ宮殿、コルドバのメスキータ、
古都トレドは、奈良と姉妹都市関係です。
イスラム教とキリスト教の激しい戦いと文化の混合が感じられる
エキゾチックな街です。
バルと呼ばれる、お食事処は気さくで美味しいものが一杯！
クリスマスは祝日で、デパートや商店街はすべてお休み。
休暇はしっかりとお休みするお国柄みたいです。
素敵な出逢いを大切にして、
豊かな人生を重ねられます事、お祈りします。

hola!

*** グラシアス ***



寿

ことぶき第14号 2015年4月号

編集後記



新年度がスタートしました。新年度を迎え、新しいことに挑戦する人もいるのではないのでしょうか。この4月から、介護保険が改正され、介護度3以上の方しか特養への入所が認められなくなる。という政府の方針に、既に特養に入所されている介護度1～2の方は、不安を覚えた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで、介護保険改訂について取り上げています。

また、4月は、新たな顔ぶれでスタートする時期でもあります。これからも、沢山の方に親しみ、読んでいただけるような季刊紙作りを行なっていきたいと思います。併せて、季刊紙だけでは紹介できなかった活動を当施設のホームページのFacebookやツイッターでも紹介しておりますので、拝見していただければ幸いです。どうぞ、今後ともよろしくお祈りいたします。

広報委員会 今井・小林(直)・渡部・亀田・岩田・辻村